

別紙 第2章 自転車を取り巻く本市の現状と課題～第3章 自転車の活用に関する今後の取組

前プラン			改定に向けた課題	改定の方向性及び方針	
まちづくりの方向性	取り組み内容	主要な取り組み			
① おもいやりの人づくり (自転車の利用ルールの周知徹底)	自転車利用ルールの周知徹底	すき間のない交通安全教育の実施	・新型コロナウイルスの影響により、交通安全教室の実施は限定的なものとなりましたが、自転車関連事故件数は減少しており、一定の成果につながっているものと考えているが、アンケート調査によると、10年前と比べて自転車利用者のルールの遵守が良くなったと回答した人が17%にとどまっていること、自動車ドライバーや歩行者からみて、自転車利用者はルールを遵守していると思う割合が15%にとどまっていることから、自転車利用ルールの周知徹底に引き続き取り組む必要がある。 ・交通安全教室だけでなく動画等を活用して継続的に交通安全教育を行う必要がある。	・幅広い層を対象とした交通安全教育を実施 ・自転車利用者が守っていない交通ルールで上位の項目などに対して重点的に周知啓発・教育を実施 ・イベント等の機会を活用した講習会の実施により、周知啓発の機会の拡大	
		地域、関係団体との協働による啓発活動	・ライフステージや年齢層など、各段階に応じた自転車交通安全教育を継続的に実施していく必要がある。	・地域や関係団体との協働による該当啓発活動を継続して実施 ・茅ヶ崎警察署や一般財団法人茅ヶ崎地区交通安全協会など関係団体と協働で、より効果的な自転車利用ルールの周知啓発に係る手法を検討	
	他者への“おもいやり”精神の醸成	段階的かつ体系的で、地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進	・ライフステージや年齢層など、各段階に応じた自転車交通安全教育を継続的に実施していく必要がある。	・児童から高校生までを対象とした段階的かつ体系的な自動車交通安全教育を継続して実施 ・学校教育と連携した家庭教育の支援について、参加者拡大といった工夫を含め検討	
	自動車ドライバーへの啓発	自動車ドライバーへの自転車の車道走行などに関する啓発活動	市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動	・歩行者や自転車、自動車等が限られた空間を譲り合う“おもいやり”の精神を育むため、広報ちがさきなどのメディアを活用など、啓発活動の手法を検討	
② 風を感じる空間づくり (自転車の走行空間・駐輪場の確保)	自転車走行空間の整備	自転車ネットワーク計画づくり	・令和5年度時点で「法定外路面標示などの整備延長」は15.4kmにとどまり、目標値30kmには及ばなかった。令和5年市民アンケート調査より整備延長が伸びることに伴って自転車の満足度が高まる傾向があり引き続き整備を推進する必要がある。 ・太平洋岸自転車道のナショナルサイクルルート(NCR)への指定や神奈川県サイクルルートを設定するなど、広域ネットワークの視点で周辺地域と連携しながら事業を進めていく必要がある。	・茅ヶ崎市幹線道路維持保全計画(ネットワーク計画)については、広域ネットワークの視点を交えながら令和6年度から改定を進め、整備を推進	
		自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保	既存道路の整備・改善(道路空間の再配分)	・自転車走行空間の整備のほか、市の特性に応じた自転車が走行しやすい施策を検討	
		自動車走行速度の抑制	利用しやすい駐輪場の整備・運営	・新型コロナウイルスの影響で、利用者数が落ち込んでいましたが、本宿町、幸町自転車駐車場の稼働率が100%を超えるなど、適切な駐輪場の設置が必要となる。 ・軒先駐輪場等、駅前以外の駐輪需要への対応が必要となるほか、多様化する自転車利用者への対応を行っていく必要がある。	・自転車等需要予測調査をもとに、需要に応じた駐輪場の整備を検討 ・市営駐輪場などでは、高齢者や障がい者、子ども連れ利用者といった幅広いニーズへ対応できるようサービスの導入・改善等を検討
		放置自転車の解消	自転車放置禁止区域の見直し・啓発活動	・自転車等の放置台数は前プラン策定時から大幅に減少している。	・放置自転車の更なる解消のため、自転車放置禁止に関する啓発活動を継続
③ 暮らしを楽しむ仕組みづくり (自転車の有効活用・利用促進)	自転車を利用したシェアリングの検討・実施	レンタサイクルシステムの促進	・観光の回遊性を高める取り組みとして、湘南地域でシェアサイクルの実証実験が進められ、市内で30箇所のポートが整備されているが、市内を網羅できていない状況である。 ・観光だけでなく、生活の足としてのシェアサイクルの活用拡大する必要がある。	・設置密度を高めることで、市民生活の面においても移動の利便性が向上することから、レンタサイクルやシェアサイクルの利用促進策を検討	
		健康づくりに着目した自転車利用促進	・令和5年市民アンケート調査によると「健康増進・体力づくり」を目的としての自転車利用は9%にとどまり、目標値20%に及ばなかった。	・健康づくりの必要性と自転車の活用を明確に打ち出したPRを行うなど、自転車の利用促進策を検討	
	「自転車のまち 茅ヶ崎」のPR	ホームページやイベントでの情報発信、看板設置 (仮称) サイクルステーション設置の検討	・県内で自転車分担率は高いものの、自転車保有台数の減少や利用数が減少している。 ・令和5年アンケート調査では、自転車を利用しない理由の回答が「家用車の利用」が40%と最も多く、自転車利用可能な距離が5年前と比べてやや短くなる傾向みられることから、自動車からの転換を促す必要がある。	・自転車等を単なる移動手段としてだけでなく、自転車を活用したライフスタイルの提案 ・平成30年に製作したブランドマークを有効活用しながら、ホームページやイベントを通じて、自転車に関する取組を市内外に広く発信	
		自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など ブランドマークの創出による一体的な取り組みの推進	公共交通機関との連携	・市内では8箇所200台のサイクルアンドバスライドが設置されているが、稼働率は0%から10%超とばらつきがある。 ・公共交通機関への自転車の持ち込みは、各公共交通の運行に支障をきたさない方法での取り組みが必要。	・自転車等需要予測調査をもとに、需要に応じた駐輪場の整備を検討【再掲】 ・サイクルアンドバスライドの利用促進策や拡充を検討
公共交通機関との連携	公共交通機関との乗り継ぎ利便性の向上	・市内では8箇所200台のサイクルアンドバスライドが設置されているが、稼働率は0%から10%超とばらつきがある。 ・公共交通機関への自転車の持ち込みは、各公共交通の運行に支障をきたさない方法での取り組みが必要。	・自転車等需要予測調査をもとに、需要に応じた駐輪場の整備を検討【再掲】 ・サイクルアンドバスライドの利用促進策や拡充を検討		
	公共交通機関への自転車の持ち込みの普及	・太平洋岸自転車道がナショナルサイクルルート(NCR)に指定され、柳島スポーツ公園が神奈川県唯一のゲートウェイに登録されている。令和7年度には道の駅「湘南ちがさき」のオープンが予定されており、さらなる観光需要の高まりに対応していく必要がある。 ・地域の安全・安心を向上させるため、災害時における自転車のさらなる活用推進の検討が求められている。	・近隣市町や民間事業者、神奈川県サイクリング協会や観光協会など連携し、市民や観光客がサイクリングを楽しめる取組など、柳島エリアを拠点としたサイクルツーリズムを検討 ・災害時における緊急移動手段としての活用を検討		

次期プラン			
まちづくりの方向性	取り組み内容	主要な取り組み	取組内容(案)
① おもいやりの人づくり (自転車の利用ルールの周知徹底)	(重点) 自転車利用ルールの周知徹底	【拡充】すき間のない交通安全教育の実施	・自転車安全利用五則の周知徹底など自転車利用教育の推進 ・自転車の利用実態調査の実施 ・交通安全教室の動画配信 ・スクアード・ストリートなど新たな交通安全教室の実施
		【継続】地域、関係団体との協働による啓発活動	・地域ぐるみのイベント・街頭啓発活動の実施 ・転入者への交通安全リーフレットの配布など ・自転車利用ルールの周知・啓発に係る新たな手法の検討
	(重点) 他者への“おもいやり”精神の醸成	【拡充】段階的かつ体系的で、地域・学校の環境に応じた自転車交通安全教育の推進	・学校などでの実車を使用した自転車交通安全教室の実施 ・学校教育と連携した家庭教育の支援の検討
	(重点) 自動車ドライバーへの啓発	【継続】市民が問題意識に気づき、考え、正しい行動を自発的にとるような啓発活動	・市民の“おもいやり”精神を育む方法の検討
② 風を感じる空間づくり (自転車の走行空間・駐輪場の確保)	(重点) 自転車走行空間の整備 (自転車の走行空間・駐輪場の確保)	【拡充】自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した自転車走行空間の確保	・自転車ネットワーク計画の改定 ・自転車専用レーンや法定外路面標示を活用した道路環境整備
		【継続】既存道路の整備・改善(道路空間の再配分)	・既存道路における自転車に配慮した整備・改善(道路空間の再配分など)
		【継続】自動車走行速度の抑制	・路面標示や物理的な対策などの道路づくりによる一般車両の走行速度抑制策の検討
		【拡充】利用しやすい駐輪場の整備・運営	・駐輪需要に応じた駐輪場の再整備(適正化に向けた検討を含む) ・高齢者や障がい者、子ども連れ利用者に配慮したサービスの検討
③ 暮らしを楽しむ仕組みづくり (自転車の有効活用・利用促進)	(重点) 自転車利用機会の創出	【拡充】シェアサイクル等の利用促進	・既存のレンタサイクル・シェアサイクルの利用促進策の検討 ・シェアサイクルポートの設置を協議
		【拡充】健康づくり等に着目した自転車利用促進	・健康づくり等に着目した自転車利用促進策の検討(モビリティマネジメント) ・通勤での自転車利用の推進
		【継続】自転車を活用したライフスタイルの提案による自転車利用促進など	・自転車を活用したライフスタイルの提案 ・自転車の点検・整備の促進 ・防犯対策の促進
		【継続】ホームページやイベントでの情報発信、看板設置	・ホームページの活用や様々なイベントでの広報活動の実施
④ 自転車を活用したまちづくり (自転車の有効活用)	「自転車のまち 茅ヶ崎」のPR	【移動】まちづくりの方向性④に掲載	・自転車等需要予測調査をもとに、需要に応じた駐輪場の整備を検討【再掲】
		【廃止】ブランドマークの製作をしたことを受け、今後は有効活用しながら自転車に関する取組を広く発信していきます。	・自転車等需要予測調査をもとに、需要に応じた駐輪場の整備を検討【再掲】
	公共交通機関との連携	【継続】公共交通との乗り継ぎ利便性の向上	・利用しやすい駐輪場の整備・運営【再掲】 ・サイクル&バスライドの利用促進 ・サイクル&バスライドの拡充の検討
	災害時における自転車の活用	【新規】災害時における自転車の活用	・災害時における自転車の活用に関する検討